NEWS LETTER

ふたばぶ便り

第3号
2006年
8月25日発行

文化のみち二葉館【名古屋市旧川上貞奴邸】は、2度目の秋を迎えます。
ニュースレター『ふたば便り第3号』では、この秋の企画展示のご案内、
また文化のみちの知られざる魅力や、文化の日に開かれるイベント
「歩こう！文化のみち」について、みなさまにご紹介します。

今なぜ桃介なのか　～志の行方～

福沢桃介という人は福沢諭吉の養子であることから、よく養父の七光りで世間を渡った人のように思われがちですが、それは誤りです。

確かにアメリカ留学を条件として福沢家に入りますが、その時の契約書が残っていて、そこには相続権はないという一文があります。福沢家の者にはなっても福沢家の資産は別だと、諭吉は最初から言っているのです。

桃介は留学から帰って後、北海道炭坑鉄道という会社に入ります。あくまで一介のサラリーマンであり、会社の命に従い猛烈に働きますが、病（結核）で倒れ、その病床の中で考えたのが株の取引でした。

寝たきりのまま指令を出し、1000円の元手が10万円になったといいます。

これに味をしめ、日露戦争の時に巨額の利（およそ300万円）を得ます。するとそこで手を引き、以後は会社経営に乗り出し、主に電力事業を起こし、発電と送電のシステムを確立させます。こうして生じた電力の安定供給により、人々の日々の生活や各種産業が成り立っているわけです。

福沢桃介と川上貞奴

つまり株の売買は必要とする資金を集める手段に過ぎず、本当の目的はその先にあったのです。昨今、その先である目的が消え失せ、単なる「拝金主義」に陥り、違法な行為に走ったり、または経済力だけを根拠にした「勝ち負け」がさけばれる傾向があります。

今回、そのあたりを見直す契機として、逆のモデル的パターンである桃介を取り上げます。

若き日の桃介

文化のみち二葉館
副館長　西尾典祐

「桃介は斯くの如し～福沢桃介展」

●10月20日（金）～12月20日（水）
●文化のみち二葉館展示室1にて

EVENT REPORT

福永令三さんを囲んで

子ども時代を、文化のみち界隈で過ごされた童話作家の福永令三さんの作品展が、3月21日から5月7日に二葉館で開催されました。

期間中の4月16日、福永さんに熱海から二葉館へお越しいただいて、トークイベントをしました。大広間には、開会30分前から参加者がぎっしり集まり、福永さんの登場を待っていました。遠く愛媛県や埼玉県から駆けつけてくださった若いファンの方もいました。

朗読のあと、50分ほど福永さんへのインタビューをしました。福永さんのクレヨン王国に寄せる思い、作家としての姿勢、読者である子どもたちを大切に思う気持ちなどをじっくりと語っていただきました。クレヨン王国の作品世界そのままに、誠実であたたかいお人柄が参加者に伝わってきた、感動的なひと時でした。

後日、参加者に対して、福永さんはお礼の手紙を写真と共に送られました。人とのかかわりをとても大切にされる福永さんならではのことですが、改めて心打たれました。

（名古屋市文化振興室　市川斐子）

イベントスケジュール

しかたしん児童文学展

しかたしんさんは、名古屋に在住し、児童文学作家として数々の作品を発表するかたわら、「劇団うりんこ」の代表をつとめるなど、文学から演劇まで幅広い分野で精力的に活動されていましたが、惜しくも平成15年に亡くなられました。

今回の企画展では、ご遺族から寄贈していただいた貴重な資料を中心に、その著作から演劇にいたるまで、多彩な業績の数々をご紹介します。

■会　期:7月19日（水）～9月10日（日）
　　*最終日のみ午後4時まで
■会　場:2階展示室5
■主　催:文化のみち二葉館　　協　力:劇団うりんこ
*8月26日（土）12:00～12:50、劇団うりんこ団員によるパフォーマンス等を大広間で行います。
（当日11:00から先着50名様に二葉館玄関で整理券を配布）

桃介は斯くの如し～福沢桃介展

■会期:10月20日（金）～12月20日（水）

春日井建・春日井濵（こう）・春日井政子展

■会期:10月24日（火）～11月26日（日）

お知らせ

●堀美術館オープンのお知らせ

文化のみちにニュースポット。近代絵画の名品をコレクションした、堀美術館が今年の6月1日に開館いたしました。二葉館と併せて、ぜひお立ち寄りください。

■開館時間:午前11時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
■常設展観覧料:一般 1,000円　各種減免あり
■休館日:土・日・祝日・資料整理日・年末年始
*ただし、11月3日は開館

●文化のみち二葉館へはすぐ前に停車する、「なごや観光ルートバス」でどうぞ。

■産業技術記念館トヨタテクノミュージアム、ノリタケの森、名古屋城、文化のみち二葉館、徳川園・徳川美術館をめぐるバスで、朝9時30分から1時間おきに15時30分まで、計7本が名古屋駅より出発。
〈土曜・日曜・祝日のみの運行（12/31～1/1は運休）〉

ふたば便り 第3号
発行日　2006年8月25日
発行　文化のみち二葉館【名古屋市旧川上貞奴邸】
〒461-0014　名古屋市東区橦木町3-23
TEL&FAX　052-936-3836
URL　http://www.futabakan.city.nagoya.jp
※この印刷物は、再生紙（古紙配合率100%）を使用しています。